

バセドウ病

甲状腺ホルモンは、全身の臓器に作用して代謝を活性化させるホルモンです。バセドウ病は、この甲状腺ホルモンが過剰に産生される、甲状腺機能亢進症の代表的な疾患です。

バセドウ病の有病率は、人口1,000人あたり0.2~3.2人といわれます。男女比は1:3~5くらいと女性に多く、特に20~30代の若年に発症することが多い病気です。

また、親、兄弟、祖父母がバセドウ病の方は、一般の人に比べて20~40倍くらいバセドウ病になりやすいといわれます。

原因

表紙の甲状腺ホルモンの調節にあるように、甲状腺ホルモンは脳下垂体からのTSHによりその産生が促進されます。甲状腺内で、このTSHの信号を受け取る場所がTSH受容体です。バセドウ病は、このTSH受容体を刺激する自己抗体が体内で作られることで、甲状腺ホルモンが過剰に産生・分泌されてしまう、自己免疫疾患の一つです。

自己抗体が作られる原因は分かっていませんが、バセドウ病になりやすい体質を持っている人が、何らかのウイルス感染や強いストレスや妊娠・出産などをきっかけとして起こるのではないかと考えられています。

症状

生体内で起こる様々な化学反応を代謝といい、これにより生命に必要なエネルギーなどの物質を作り出しています。甲状腺ホルモンはこの代謝を活性化させますが、その分泌が過剰になると、代謝も過剰に活性化され、

- 心拍数の増加と血圧上昇
- 不整脈による動悸
- 大量発汗と体のほてり
- 手の振戦（ふるえ）



- 神経過敏と不安
- 睡眠障害（不眠症）
- 食欲が亢進するにもかかわらず体重が減少する
- 疲労や脱力を感じるにもかかわらず活動レベルが高まる
- 排便回数増加（ときに下痢を伴う）
- 女性では月経周期の変化



などの症状を来します。

また、外観では甲状腺が腫大し、目の奥の脂肪組織の炎症により、眼球突出を起こします。



治療

抗甲状腺薬

チアマゾールとプロピルチオウラシルは、甲状腺機能亢進症の治療に最も多く用いられている薬です。これらの薬には、甲状腺における甲状腺ホルモン産生量を減らす働きがあります。

放射性ヨウ素内用療法

放射性ヨウ素により甲状腺の一部を破壊して機能を低下させます。

手術

アレルギーなどにより、前記2種の治療が出来ない場合、甲状腺の一部または全部を切除する、甲状腺摘出術が行われます。

バセドウ病は臨床的には、心拍数増加や不整脈による動悸のため、外来受診をされるケースが非常に多い疾患です。病初期には眼球突出が無く、甲状腺腫大も目立たない方もあるので、動悸を持続的に自覚される方は、一度甲状腺ホルモンを測定しておく必要があります。